

れきはく NEWS

vol.46
2019.MAR

島根県立古代出雲歴史博物館の
旬な話題や情報をお届けします

Shimane Museum of Ancient Izumo

CONTENTS

- 2 企画展
「古墳文化の珠玉 ー玉は語る出雲の煌めきー」
- 4 展覧会通信
- 5 学芸員通信
- 6 れきはく通信
- 7 古代文化センター通信
- 8 れきはくごよみ

（企画展）

古墳文化の 珠玉

玉は語る
出雲の煌めき

平成31年(2019)

4.26(金)~6.17(月)



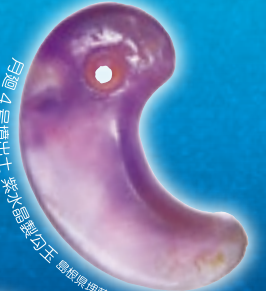
山形県出土 青ガラス製勾玉 鳥取県埋蔵文化財調査センター蔵



釜代1号墳出土 碧玉製勾玉 松江市教育委員会蔵



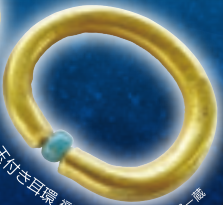
高津久10号横穴墓出土 メノウ製勾玉 和束町教育委員会蔵



月廻4号墳出土 紫水晶製勾玉 鳥取県埋蔵文化財調査センター蔵



興原石ヶ元12号墳出土 ガラス小玉付き耳環



福岡市埋蔵文化財センター蔵



深底1号墳出土 玉類 鳥取県埋蔵文化財調査センター蔵

紫金山古墳出土 勾玉文帯神獸鏡 京都大学文学部考古学研究室保管



会期

2019年
4月26日(金)～6月17日(月)

◎開館時間／9:00～18:00
※最終入館／17:30

◎会期中の休館日／5月21日(火)

会場

島根県立
古代出雲歴史博物館
特別展示室



勾玉文帯神獸鏡
(大阪府・紫金山古墳出土) [京都大学文学部考古学研究室保管]

現代の様々なアクセサリーの先駆けといえる「玉」文化は、古墳時代に花開きました。勾玉、管玉、丸玉、切子玉など多様な形に作り出され、素材も貴石、ガラス、金属など多種にわたり色彩鮮やかな玉類が使われました。

しかし、古代の人々は、玉類を単なるアクセサリーとしては見ていません。時のヤマト王権から下賜を受けたり、朝鮮半島外交の成果により入手したり、様々な政治・外交・交易の成果として玉類を得ていました。つまり、玉類の所有状況をみれば、その有力者の階層、職掌、性別などを考える有効な材料にもなるのです。

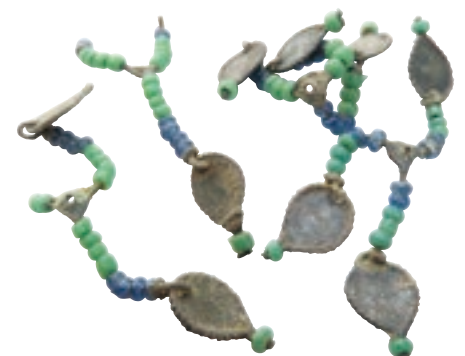
島根県は、古墳時代、全国屈指の玉類の生産地であったことは著名です。この企画展で「玉類」を見ながら、古代社会に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。



伊賀武社境内横穴墓出土玉類・耳環
[奥出雲町教育委員会蔵]

魅惑の玉類

玉類の魅力はなんと言っても、鮮やかな色彩にあるでしょう。インド、西アジア、中国などから搬入されたガラス玉の輝きや、金銀を丁寧に加工した金属製装飾品の造形には現代人も引き込まれます。



峯ヶ塚古墳出土ガラス玉付き銀製歩揺
[羽曳野市教育委員会蔵]

瓦塚古墳出土玉類 [宇治市教育委員会蔵]

企画展
古墳文化の珠玉
— 玉は語る出雲の煌めき —

☯ 出雲で作られた玉類



面白谷遺跡出土玉類未成品
[鳥根県埋蔵文化財調査センター蔵]

玉造温泉の東側には、「花仙山」という標高200mに満たない山が横たわっています。この山こそ古墳時代から奈良時代にかけて玉類の素材として使われた碧玉、メノウ、水晶などを産出した場所です。花仙山周辺で製作された玉類は、全国津々浦々にまで流通しています。



イザ原6号墳出土玉類
[倉吉市立倉吉博物館蔵]

☯ 蘇る玉類

古代社会で愛用された玉類は、中国大陸の隋・唐文化の影響により奈良・平安時代には衰退し、江戸時代まで忘れ去られていました。しかし、江戸時代後期から国学の興隆により古代への関心が高まると共に、近代に入ると明治政府の施策として『古事記』・『日本書紀』に記載された人物の図像化が進められ、玉類は再び日の目を浴びました。



ちりめん本『西文日本昔噺』第二輯
スペイン語版 (1914年)
[鳥根県立古代出雲歴史博物館蔵]

ボンボニエール・文鎮
(北白川宮永久王御成婚時/1937年)
[学習院大学史料館蔵]

☯ 104年ぶりの里帰り 荒川嶺雲作「野見宿禰像」

松江市出身の彫刻家・荒川嶺雲が大正4年(1915)に制作し、皇室に献納した作品。『古事記』、『日本書紀』に登場する出雲出身の伝説的な忠臣、かつ相撲の開祖である「野見宿禰」を題材としている。(4月26日～5月25日の期間に展示)

こちらもおすすめ!

企画展関連催事

関連講座

第1回

古墳時代の珠玉と玉作り

- 日時/5月12日(日)
13:30~15:00
- 講師/米田 克彦氏
(岡山県古代吉備文化財センター)

第2回

玉からみた山陰と九州

—古墳時代開始期前後を中心に—

- 日時/5月26日(日)
13:30~15:00
- 講師/谷澤 亜里氏
(九州大学総合研究博物館)

第3回

奈良・平安時代における出雲の玉

- 日時/6月9日(日)
13:30~15:00
- 講師/平石 充
(鳥根県古代文化センター)

各講座とも 定員100名(参加無料)

- 会場/古代出雲歴史博物館 講義室

関連講座に参加をご希望の方は、下記の方法でお申込ください。

- お申し込み方法
電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームのいずれかで事前にお申し込みください。
- お申し込み先
〒699-0701 鳥根県出雲市大社町杵築東99-4
古代出雲歴史博物館
TEL.0853-53-8600 FAX.0853-53-5350
<https://www.izm.ed.jp>

【個人情報の取り扱いについて】
この申し込みによって収集した個人情報は、鳥根県の規定に従って取り扱い、表記の関連イベント・講座開催の目的にのみ利用するほかは、法令に定めがある場合を除いて、第三者に提供することはありません。

ギャラリートーク

- 日時/5月12日(日)
5月26日(日)
6月9日(日)
各回10:00~11:00
- 会場/古代出雲歴史博物館 特別展示室
- 講師/古代出雲歴史博物館 企画展担当学芸員

参加には年間パスポートまたは企画展観覧券が必要です。

企 画 展

たたら — 鉄の国 出雲の実像 —

◎会期／2019年7月12日(金)～9月1日(日)

■開館時間／9:00～18:00 ※最終入館／17:30

■会期中の休館日／8月6日(火)

◎会場／島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

◎主催／島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター

たたら製鉄とは、日本列島で独自に発展した砂鉄・木炭を原料とする製鉄法で、その生産体系は江戸時代に確立しました。出雲をはじめとする中国地方では、江戸時代から明治時代前半にかけて、たたら製鉄が盛んで、国内の鉄の大半を生産し、多くの富をもたらしました。出雲はまさに「鉄の国」といっても過言ではありません。

それでは、いつから出雲は鉄の大産地へと発展し、その背景には何があったのでしょうか。

この展覧会では、古代から江戸時代にかけて、日本列島各地における鉄生産の歴史を紐解きながら、どのようにしてたたら製鉄の技術体系が完成されていったのか紹介します。

また、流通やくらしといった様々な面で現れる鉄関連の資料などから、鉄が地域や列島の社会・文化に及ぼした影響についても解き明かし、新たな視点から「鉄の国」出雲の実像に迫ります。



▲雲陽国益鑑 (江戸時代) (島根県教育委員会所蔵)

出雲国に富をもたらした産業や特産物を番付で表しています。たたら(鉄山鑑)は西の大関で、まさに出雲の基幹産業でした。



▲金屋子神の図 (江戸時代) (木原明氏蔵)

出雲の鉄師、下蔵家に伝わったもので、上部の中央に製鉄の神である金屋子神が、その下にたたらと大鍛冶の作業風景が描かれています。

ひな祭り

古代出雲歴史博物館 学芸部長 浅沼政誌

3月3日はひな祭りの日。「桃の節供」「雛の節供」などとも呼ばれ、七種の節供（1月7日）や菖蒲（端午）の節供（5月5日）、七夕祭（7月7日）、菊（重陽）の節供（9月9日）などとともに五節供の一つとして知られています。ちなみに「節供」あるいは「節句」と表記されますが、元々「節供」とは節日に供える飲食物のことで、5月5日の笹巻き（ちまき）や、かしわ餅などが代表的な例です。これが祝日を意味するようになり、江戸時代頃からは「節句」とも書かれるようになって現在に至っています。

ひな祭りは、当地では一ヶ月遅れの4月3日に行われ、ひな人形を飾り、桃の花や蓬入りの菱餅、ひなあられなどを供える習俗が広く見られます。また、人形を飾ってすぐに片づけることを惜しみ、3月3日頃から4月3日頃までの約一ヶ月間飾られたりし

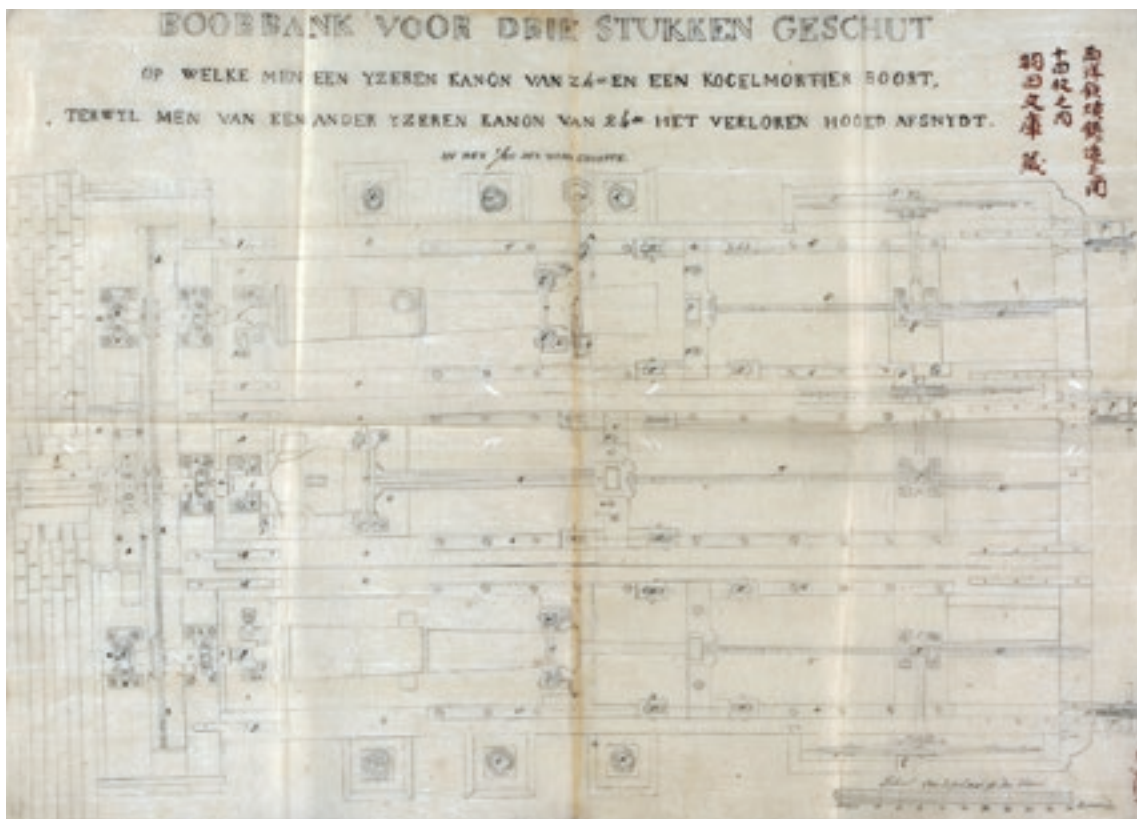
ます。このひな人形は、女兒の初節供の時に母親の実家や親戚から贈られたり、嫁入りの際に持って行くなどすることから、女兒の健やかな成長を願う節供であると広く認識されています。

一方、以前はこの日のことを「天神さん」とも呼び、男児の初節供の時に母親の実家や親戚から贈られた粘土製の男神像を飾る習俗も広くみられました。これを「天神さん」あるいは「泥（土）天神」と呼びます。学問の神様として知られる菅原道真をかたどったもので、県内には製作する産地が多く存在しました。出雲地方だけでも、沖洲天神（出雲市斐川町）・今市天神（同今市町）・知井宮天神（同知井宮町）・横浜天神（松江市横浜町）などがありました。

ひな祭りは女兒だけでなく、男児の健やかな成長を願う節供でもあるのです。



今市天神



西洋鉄煩鑄造之図 14枚の内1枚 (羽田文庫旧蔵)

新収蔵品紹介

松江藩お抱え蘭学者 金森建策

古代出雲歴史博物館 専門学芸員 岡 宏 三

松平不昧の孫で松江松平9代藩主・松平齊貴(1815~63)は、欧米に強い関心を示し、西洋時計やコウモリ傘、さらには長持3棹分にもおよぶ多くの洋書を蒐集しました。

齊貴はまた蘭学者・金森建策(錦謙)を召し抱えました。金森は備中(岡山県)出身。長崎でオランダ語を学び、ついで江戸の坪井信道に入門し、緒方洪庵らとともに研鑽しているなかで齊貴の目に留まり、嘉永2年(1849)松江藩お抱えとなりました。

アヘン戦争で中国がイギリスに敗れ、嘉永6年(1853)にペリーが浦賀に来航するようになると、日本では西欧に対抗すべく軍備の強化が急務となっていました。このためコストがかかる青銅製に代わる鑄鉄製大砲の量産が課題となりました。金森は、幕府の西洋砲術師範・下曾根信敦のもとで、1826年にオランダで出版された『ロイク王立大砲鑄造

所における鑄造法』(Het gietwezen in's Rijks Ijzer Geschutgieterij, te Luik')の図版を翻訳、安政3年(1856)に『鉄煩鑄鑑図』(図版編・図解編)を出版しました。同書の翻訳は手塚律三の『西洋鉄煩鑄造篇』、伊藤玄朴・同門人らによる『鉄煩全書』に続くもので、鑄鉄溶鋳炉建造のための必読資料として重視されました。

近年当館では『鉄煩鑄鑑図』の図解編と、図版編の書写図を購入しました。前者は英学者・勝俣銓吉郎の旧蔵品、後者は幕末の三河の神官・羽田野敬雄が有志に働きかけて設立した羽田八幡宮の文庫の旧蔵品。神主がこのような資料を入手していたのは現在からすれば奇異に思われますが、幕末の情勢不安を打開するためには誰もが最先端の多様な知識・情報を身に付ける必要があると考えたからでした。

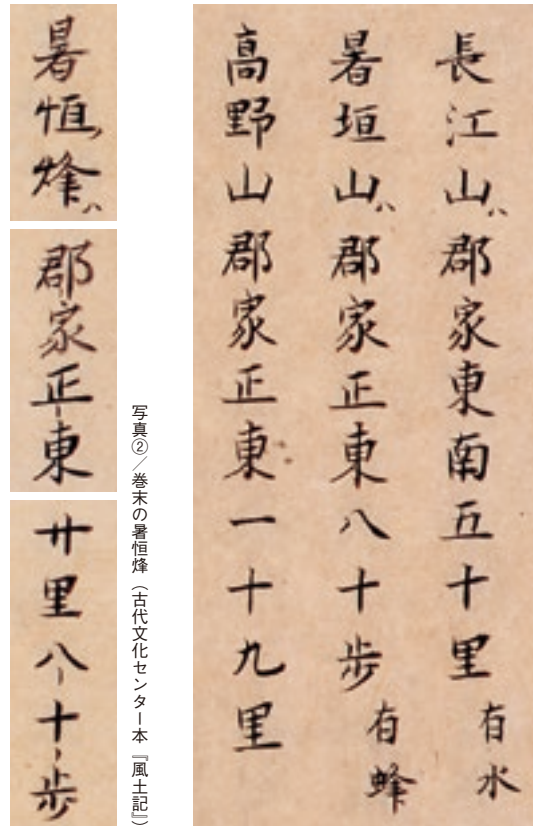
『出雲国風土記』校訂・注釈の現場から

島根県古代文化センターでは、古代出雲歴史博物館で開催する企画展のもとになるテーマ研究とは別に、センター設置時から継続的に実施している基礎研究がある。その一つに、奈良時代の天平5年(733)に完成した地誌、『出雲国風土記』(以下『風土記』という)の内容を解明し、そこから出雲の古代社会を検討する風土記調査事業がある。現在、『風土記』本文を読んで、校訂し、注釈を付す作業をおこなっており、その一端を紹介したい。

現代に伝わる『風土記』は天平5年に作られた原本ではなく、それを何度か写したもの(写本)である。その文章には、繰り返された書写のいずれかの段階で、書き間違え・文字の飛ばし・同じ文字の重ね書きされた箇所がたくさんあり、原本がどうだったかが問題となっている。

例えば、意宇郡おうの暑垣山あつがきの箇所をみると、写本では暑垣山には「有蜂(蜂有り)」と記されている(写真①)。素直に読むと暑垣山に蜂がいた、ということになるが、『風土記』では個別の山に棲息する動物を記す例は他になく、その一方で巻末には暑垣山によく似た「暑恒烽あつつね」という烽とび(のろし台)があったとの記載がある(写真②)。暑恒烽が暑垣山にあったとすると、「蜂」も「烽」の誤写だと判断できるが、暑垣山と暑恒烽の郡家(意宇郡の郡役所)からの距離を見ると、暑垣山は「正東八十歩」、暑恒烽は「正東廿里八十歩」と記されている。では、二つは違う山と烽か?ということになるが、意宇郡の山は郡家の東の遠い方から順に書かれているので(同じようなルールは他の郡でも確認できる)、暑垣山は次の行の「正東十九里」の高野山より東にあったことが推測できる。このように考えると、やはり暑垣山と暑恒烽は同じ山を指し、郡家からの距離は「正東廿里八十歩」で、「廿里」が脱落しており、全体として意宇郡の暑垣山は「暑垣山 郡家正東廿里八十歩有烽」だったということになる。

次にこの山や烽の名前は「暑垣」なのか「暑恒」なのかだが、多くの『風土記』の注釈書では暑垣が正しいとして、写真②の暑恒を暑垣に訂正する。しかし、どちらも『風土記』中1例しか記されていないうえ、現在地名にも「あつがき」「あつつね」共



写真②／巻末の暑恒烽(古代文化センター本『風土記』)

写真①／意宇郡の山記載(古代文化センター本『風土記』)

に残っていないから、両方の可能性を残しておくべきだろう。

また、先に記した「廿里」のような脱落は補うべきであるが、現存『風土記』の数字には個別の記載と集計とで計算の合わない部分があり、それらは原本の『風土記』の完成度を反映しているとみられる。『風土記』とは異なる例として、同じ奈良時代の公文書でも正税帳しょうぜいちょうなど税務関係の文書には、計算間違いはなく、必要な部分は紙の表面を削り書き直すなどして訂正されている。今に残る『風土記』がこの完成度に及ばないことは確かで、研究者が勝手に数字を操作すると、存在しなかった完璧版『風土記』を創作してしまうことになる危険性もある。

『風土記』に何が書かれているか、既に全てが分かっているかのように思いがちであるが、実際には写本から原本がどのように書かれていたのか考えると、いまだに判断に苦しむところは多い。まず、読解すること、そして文章の解釈を示すこと自体が『風土記』研究の大きな研究課題であるといえるだろう。

■島根県古代文化センター専門研究員 平石 充

れきはくよみ

2019年イベントスケジュール

参加無料!

3/10
日

開館12周年記念イベント

「れきはくであそぼ」

◎時間 / 10:00～15:00

◎場所 / 古代出雲歴史博物館 講義室

みんなあつまれ～!

*神話の絵本 よみきかせ

〈1回目〉10:30～〈2回目〉13:30～(各回約20分)

[工作コーナー]

*とん!とん!ペタ!ペタ!つくってあそぼ

◆紙ずもう / オリジナルの紙ずもうをつくってあそぼう!

◆まが玉のくびかざり・うでわ / ストローと紙でつくってみよう!

館内をまわってスタンプをあつめよう!

*スタンプラリー



小さなお子さまも
お楽しみいただけます!
みんなであそぼ～!

ドキドキわくわく☆
ゴールをめざそう!

*段ボール迷路

庭園で
のびのびあそぼう!

*けんけんぱっ!



6月
初旬

体験水田 古代米の田植え



出雲農林高校の生徒とたいしゃ保育園の園児が(手で植える)昔ながらの方法で、古代米の田植えを行います。

10/6
日

秋の体験学

「れきはく秋まつり」



出雲農林高校による迫力満点の太鼓パフォーマンスや、移動動物園、農産加工品の販売など楽しくて“おいしい”体験をご用意しています。



7/28
日

夏の体験学

「れきはく夏まつり」



県内外の博物館がやってくる「出張博物館コーナー」や、藍染体験など人気の体験コーナーが盛りだくさん!

10月
中旬

体験水田 古代米の稲刈り



6月に植えた古代米が実りの季節を迎えます。古代の道具をつかった稲刈り体験のあとは、古代米の試食を行います。

※日時や内容は変更になる場合があります。詳しくは内容が決まり次第、ホームページなどでお知らせします。

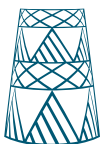
9/15
日

れきはく 観月会



歴博の庭園で神楽を楽しみながら、一緒にお月見しませんか?

どこ行く? れきはく!



島根県立古代出雲歴史博物館

Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
[URL] <https://www.izm.ed.jp> [E-mail] contact@izm.ed.jp
開館時間 / 9:00～18:00(11月～2月は9:00～17:00)
休館日 / 第3火曜日(変更の場合有り)



マスコットキャラクター
雲太くん



発行 / 平成31年3月



マスコットキャラクター
出雲ちゃん